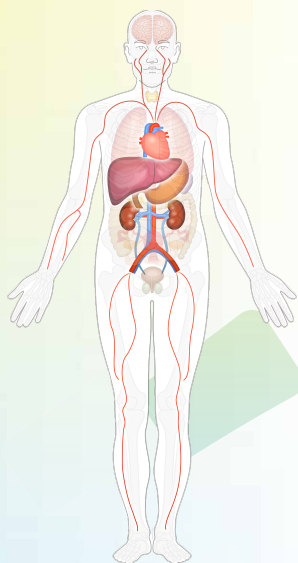


メタボリック  
シンドローム



検査項目		目的	メタボリック シンドローム	
※検査項目をクリックいただくと 詳しい情報を閲覧できます。		対 象		
	生化学 I 総項目数	主な臨床的意義	10	5
	実施料		109	93
	判断料		144	144
	●合算		253	237
1	γ-GT	胆道閉塞・アルコール肝炎・脂肪肝	●	
2	AMY	膵臓・唾液腺・腎臓		
3	ALP	胆道・骨		
4	AST	肝臓・心臓	●	
5	ALT	肝臓	●	●
6	CK	心筋・骨格筋・甲状腺		
7	LD	心臓・肺・骨格筋・溶血	○	
8	コリンエステラーゼ	肝硬変・脂肪肝・農薬中毒・麻酔・栄養	○	
9	総ビリルビン	肝炎・胆道閉塞・溶血		
10	直接ビリルビン	肝炎・胆道閉塞		
11	クレアチニン	腎臓・筋肉量	●	
12	尿素窒素	腎臓・組織蛋白異化		
13	総蛋白	栄養		
14	アルブミン	栄養・炎症	●	
	A/G 比 (計算項目)	一般状態		
15	尿酸	痛風・腎臓・肥満	●	
16	ブドウ糖	糖尿病	●	●
17	中性脂肪	動脈硬化	●	●
18	総コレステロール	動脈硬化	●	●
19	LDL コレステロール	悪玉コレステロール・動脈硬化		
20	HDL コレステロール	善玉コレステロール・動脈硬化	●	●
21	HbA1c	糖尿病	●	
22	CRP	炎症	●	

・ HbA1c は血液形態・機能的検査項目で、実施料は 49 点、判断料は 125 点、CRP は、免疫学的検査で、実施料は 16 点、判断料は 144 点。

\* CRP の適応疾患については、診療報酬支払基金の判断に違いがあるので注意が必要

○は、10 項目を超えることを容認するなら加える。

●は、生化学以外の検査項目

◆メタボリックシンドローム

- ・ 病態の最上流にある肥満に伴い、AST/ALT (特に ALT)、γ-GT、尿酸、ブドウ糖、中性脂肪、LDL コレステロール (計算式で算出) が増加し、HDL コレステロールが減少する。
- ・ 肥満のみでも低濃度域で CRP が増加するが、脂肪肝炎などに進展すると、より高値となる。
- ・ 糖尿病が疑われる場合には HbA1c を測定する。
- ・ 包括限度を超えて項目数を増す場合には、コリンエステラーゼや LD も増加するのでより詳細に病態を診断するために測定する。更には、肝臓癌のリスクが高いため、AFP や PIVKA- II の測定も考慮する。